

令和8年度 府中市立白糸台小学校学校経営計画

府中市立白糸台小学校
校 長 堀越 新一

1 はじめに

昨年度、世界情勢は一変し、日本にも影響が表れ、様々な判断、選択が求められている。まさに変化の激しい不確実な時代となったといえる。学習指導要領の改訂に向け「自らの人生を舵取りする力」が示されたのは時代を反映したものといえよう。自然環境も変化しており、4月下旬からの暑さは想定内となり、昨年度見られた熊などの動物出現も含め、さらにこれからの予測できない変化にも対応しなければならない。このように教育活動を進めるにあたり「前例踏襲」では立ち行かなくなっており、先を見通しての計画、実践が求められる。

第一に授業改善である。舵取りをする力を付けるためには、自立した学習が必要である。覚えるべきことを覚え、指導者のまとめた板書を正確に写すだけの授業は自立した学習とはいえず、今求められていない。子供が自ら調べたい、考えたいと思い、これまでの経験からの自分としての考えをもち、仲間と協働しながら新しい発見をし、そこで得られた知識を身に付けていくといったような学習が必要である。府中市研究奨励校として得られた発表の機会、授業改善の成果を問いたい。

第二に子供一人一人を受け入れる学校体制の確立である。令和7年度の自殺者数は減少したものの、小中高生のそれは調査開始以来、過去最高となった。不確実時代が子供に影響を与えているとも考えられる。教室に入りにくい子、他者とのコミュニケーション、学習等に不安のある子、様々な特性をもつ子供たちに、学校組織全体で地域、諸機関と連携して寄り添っていく。

第三に地域との連携の推進である。大きな地震も予想されているが、自然災害など有事の際には、地域のつながりがいっそう重要になってくる。本校は地域の避難所にもなる。しかしPTA活動が簡素化されるなど、地域でのつながりは課題となっている。一方、昨年度地域と共に創立55周年を祝ったこともあってか、全国学力学習調査によると「地域をよくするために何かしてみたい」に「当てはまる」と回答した子供が、都や全国の平均を10ポイント以上上回っている。そういった子供たちの地域への愛着を大切に、地域、防災危機管理課と共に避難所としての機能を確認すると同時に子供たちに改めて地域とのつながりを認識させ、この地域で生活する安心感を醸成したい。その他、地域から学び、地域に返す実践を通しよりふるさと府中に愛着をもつ子供を育てていく。

教職員一人一人が子供の実態や時代の要請を把握して、柔軟な発想で前例踏襲でない新しい取組に挑戦していきたい。そのことが、子供たちの新しいことへの挑戦につながるはずである。

教育の目的は、時代の変容に関わらず子供たちに真の学力（将来幸福に生きるための力）を育成することである。一人一人の自己肯定感、有用感を高めるため、よさを認め、それを価値付けて伸ばすという実践を重ね、「自分にはよいところがある、自分の存在が他の人にとって意味がある」と実感させていく。

2 学校の教育目標

日本国憲法、教育基本法、精神および人間尊重の精神を基調とし、平和を愛し、ふるさと府中に誇りをもち、心身共に健康でたくましく、広く国際社会において信頼と尊敬を得ながら、予測困難な時代をよりよく生きる子供を育てる。

知・徳・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成

3 目指す学校の姿（校長の理念）

教育委員会、家庭・地域・関係機関との連携のもと、子供が安心して通え、自己有用感をもって自ら学んでいくことのできる学校目指して

笑顔あふれるみんなの学校

— 認めて ほめて 伸ばす —

(1) 子供の笑顔

友達や教員と共に学ぶ喜びを味わえ、希望をもって通える学校

(2) 家庭・地域の笑顔

地域・保護者から信頼され、協力を得られる学校

(3) 教職員の笑顔

常によりよい授業を考え、協働して子供の成長を喜び合える学校

4 目指す子供の姿 ～子供の笑顔のために～

- ① 知・すすんで学ぶ子 → 児童が自らの考えをもち、学び合う中で、新しく豊かな発想を生む

【重点】 「分かった！できた！自分には得意なことがある！」

「友達や先生と学ぶことが楽しみ！」

- ② 徳・助け合う子 → 児童が互いのよさを認め合い、生かし合う

「自分も友達も大切に、一緒によりよい学校生活をつくる」

「相手の立場に立って考える」

- ③ 体・たくましい子 → 児童が自らの健康、安全に関心をもち、自己管理をする

「すすんで体を動かす」「最後まで粘り強くやり遂げる」

5 目指す教職員の姿 ～子供、家庭・地域の、そして自身の笑顔のために～

- ① 児童を共感的に理解するように努め、よいところを見付け価値付ける。
- ② 実践を通して学び合い、授業力を高め、児童の力を引き出す。
- ③ 学級担任から学年担任としての発想で、分掌全体で児童に寄り添っていく。
- ④ 職務の自覚をもち、服務事故を絶対に起こさない、起こさせない。
- ⑤ 全教職員共通理解し組織的に個々の児童のニーズに合った指導及び支援を行う。
- ⑥ 校内環境・教室環境を整え、安全で清潔な校内環境とする。
- ⑦ 府中第二中学校と第十小学校との小中連携教育に、9年間のゴールを共通理解して取り組む。
(二中学区コミュニティ・スクールとして地域の学校、生涯学習の拠点としての学校)
- ⑧ 積極的に情報発信を行い、保護者・地域の理解を得ながら、相互に信頼し合い高め合う（地域コーディネーターを起点として学習支援、PTA行事、図書ボランティア、課外クラブ活動支援等で協力いただき、情報発信、地域行事等への参加で地域とつながる）。

6 実現のための方策

東京都教育施策大綱、教育振興基本計画、及び第3次府中市学校教育プランに基づいた教育、さらに令和6年度以降の府中市立小中学校の教育課程編成に向けたグランドデザインに示された4つの視点「発見」「対話」「決定」「表現」の具現化を図る。また、スクール・コミュニティを核とし、家庭・地域と連携し、教育活動の充実を図り、子供たち、保護者・地域、教職員の笑顔あふれる学校をつくる。その基盤として、教職員自ら授業力向上を図る。組織的に取り組む校内研究の積極的推進、教員個々の学びである専門性向上研修、府教研等、積極的に取り組んでいく。併せて、行事、分掌等の精選を進め、働き方改革を含めた教育環境の充実に努める。

(1) 中・長期的目標

① 学力・体力の向上

- ・主体的・対話的で深い学びの実現 → 自分で問題を見だし、他者と学び合う授業
- ・地域・家庭と連携した学習習慣の確立 → タブレットも活用し、自ら学ぶ家庭学習

- ・ 体育授業の充実と外遊び、運動習慣の定着 → 休み時間の活発な外遊びと持久力向上
- ② 教職員の資質向上
 - ・ 学年で学習、生活指導を進める意識の向上 → 高学年教科担任制を視野に学年担任
 - ・ 個別最適な学びと協働的な学びのための指導法の確立 → 積極的な授業研究
 - ・ 危機管理意識と人権感覚の向上 → 防災マニュアル、情報管理ルールの共通理解
 - ・ 前例踏襲でない効率的な勤務への転換 → 交換授業、ICT 活用による会議等精選
- ③ 保護者・地域との連携
 - ・ スクール・コミュニティ協議会を基盤とした地域教育資源の活用 → 地域と学ぶ
 - ・ 積極的な情報発信と学校評価を生かした教育活動の推進 → 学校から地域へ
 - ・ 新しい連携の確立 → PTA 活動精選の流れのなかで
- ④ 小・中連携教育の推進
 - ・ 9年間を見通した「学び」と「育ち」の系統的指導について共通理解の確立
 - ・ 児童、生徒の交流を基盤とした小中連携
 - ・ 挨拶が飛び交う中学校区
- ⑤ 特色ある教育活動の充実
 - ・ 児童の健全育成を図るための和太鼓クラブ、タグラグビークラブ、白小合唱団の活動
 - ・ 府中けやきの森学園との通年交流、インクルーシブ行事の実施
 - ・ 外国を母国とする人との交流

(2) 今年度の取組目標

- ①校内研で研究主題に沿って授業を提案し合い、自立して学んでいく児童の育成を図る。
- ②個別最適な学び、不登校児童の学びを保障し、一人一人を大切にしたい指導を進める。
- ③地域と学び、地域への理解を深める。ふるさと府中と母校に誇りをもてる取組を工夫するとともに、積極的に情報発信し、協力を得る。
- ④新しくなる端末の授業、家庭学習での有効活用を図る。
- ⑤学習、生活指導を学年で進め、若手教員の育成を図る。
- ⑥自然災害時の避難体制について地域と共に学ぶ機会をもつ。
- ⑦教員個々、子供の発想を生かした新しい取組を行う。
- ⑧持続可能な課外クラブ活動への改善を進める。

(3) 重点目標および達成のための方策〔教員〕

	目 標	達成のための方策
学習指導	1 確かな学力の定着を図る。	1－①基礎・基本的な知識・技能に関するテストの正答率全員を8割以上とする。 1－②新しい一人1台タブレットを日常的に授業や家庭学習で有効活用する。 1－③家庭学習で、漢字、計算を中心に計画的に取り組ませる。
	2 児童が主体的に学習を進める授業をつくる	2－①児童が問題や学習方法を選択できる授業を週1時間以上設定する。(1年は2学期から) 2－②自ら学ぶ授業によって自分にはよいところがあると感じる子供を9割以上とする。 2－③校内研提案による公開授業を1回以上実施する。(授業観察等含む)
	3 体力の向上を目指す	3－①中、昼どちらかの休み時間には外遊び、体育館遊びとする。

	4 学習内容・体験活動の見直しをする。	3－②持久走、縄跳びタイムに全員取り組ませる。 3－③全学年で持久力都平均を目指す。 4－①未来へつなぐ府中 2020 レガシーの取組等、地域諸施設、人材を活用した学習を年間 1 回以上実施する。 4－②英語 EnjoyWeek 等を活用し、英語によるコミュニケーションの機会をもたせる。 4－③「しらうめ」では探究的学習に取り組む。
生活指導 進路指導	1 自己肯定感、自己有用感を高める。 2 規範意識を高める。 3 いじめの芽や欠席児童への早期対応で、不登校児童を増やさない。 4 安心・安全な学校をつくる。	1－①子供がよさを発揮する場面を意図的に設け、行動を価値付けほめることで、自分によさがあると思う子供 9 割以上とする。 1－②生活夕会、校内委員会で課題解決を図るだけでなく、子供のよさを共有する。 1－③自他の命を大切にする意識を高める取組を学期に一度以上実施する。 2－①自分から挨拶できる子供 8 割以上とする。 2－②「みんなの生活」「タブレット活用のきまり」等について共通理解を図り、徹底する。 2－③地域や家庭と連携し、SNS 公園の使い方など校外生活の規範意識を高める。 3－①年間 3 回のアンケート調査等でいじめの芽を把握、月 1 回のいじめ対策委員会を実施し、いじめ未解決をゼロとする。 3－②欠席児童家庭には電話連絡、長期欠席している家庭と週 2 回は連絡を取り、諸機関と連携し手立てのない家庭をつくらない。 3－③いじめに関する授業 3 回、長期休業前の自殺予防指導を実施する。 3－④児童会を中心にいじめ防止について子供自身が考える取組を実施する。 4－①月 1 回の「心の天気」で児童を把握する。 4－②地域・保護者と児童で避難所開設を含めた防災訓練で防災への意識を高める。 4－③毎月の安全点検・安全指導を充実させる。
学校運営	1 職務の効率化を図る。 2 メリハリのある職務の遂行を目指す。	1－①早めの提案と事案決定の徹底、ICT 活用、支援員の協力、職員会議の精選などで月勤務時間外在校 45 時間を超えない。 1－②スクラップ＆ビルトの意識をもち、簡素化できる取組を自己申告で一つ以上挙げる。 1－③カリキュラムマネジメントにより、効果的かつ効率的な学習を進める。 2－①会議、委員会は開始時刻に始める。 2－②各主任は、週毎・月毎の分掌職務の達成状況を主幹教諭に報告する。 2－③登校した児童を昇降口、または教室で迎え 1 日を始める。

	3 学年の機能の向上を図る。 4 特別支援教育の視点での指導について、全校で取り組む。	3－①勤務時間内に設定した学年会で分掌での検討内容や授業進度、学年児童についての共通理解を図りながら教育活動を推進する。 3－②専科教員も副担任として学年の仕事を担い担任と共に指導にあたる。 3－③道徳を中心に交換授業や合同授業に積極的に取り組み、他学級児童への理解を深める。 4－①教室前面掲示の整理、事前に見通しをもたせるなどユニバーサルデザインの視点で授業を進める。 4－②ゴールを明確にして、一人一人に最適な学びが進められる授業を展開する。 4－③デフリンピックレガシーとして、全校で手話に取り組む機会をもつ。
特別活動 その他	1 児童一人一人の自主性の伸長を図る。 2 家庭・地域との連携を図る。 3 特色ある教育活動を推進する。	1－①児童の発想を生かした創造的なクラブ活動、委員会活動とする。 1－②縦割り活動を推進し下学年の目標となるように高学年の意識を高め、下学年には異年齢交流の楽しさを味わわせる。 1－③年間計画に沿って学級活動（学級会）に取り組む。 2－①地域愛や地域理解を深める取組を分掌で1つ以上提案する。 2－②学校ブログで各分掌から月2回以上情報を発信する。 2－③自立する生徒を目指し9年間を見通した学習、教職員の相互理解、児童・生徒の交流を核とした小中連携を進める。 2－④幼稚園、保育園との連携を継続する。 3－①インクルーシブ運動会と全学年系統的にけやきの森学園児童との直接交流を行う。 3－②課外クラブの活動に協力する。 3－③青少対行事、課外クラブ活動の応援なども含めた、地域行事に年間1回以上参加する。
研究 ・研修	1 校内研究を積極的に推進する。 2 若手教員の育成を図る。	1－①研究の全体構想を明確にし、提案授業を受けて次の提案につなげる。 1－②児童自らが問題を見だし単位を通して解決する姿を授業実践を通して提案し合う。 1－③市研究奨励校発表で提案する内容を明らかにし、全学級で発表する。 2－①指導教員を中心に、組織全体で新規採用教員の育成を図る。 2－②OJT 研修を活用するなど、主任教諭中心に若手教員の育成に取り組む。 2－③校内研分科会授業、事前授業等の授業者とし、指導技術を高める。

	3 教員の資質向上を図る。	3－①全教員マイ・キャリア・ノートに登録し、府教研、夏季研修会など計画的に研修を進める。
	4 教育公務員としての自覚をもち、自己啓発に努める。	3－②丁寧に傾聴し保護者、外部と対応する。 3－③職層に応じた研修の充実を図る。 4－①服務事故ゼロとするために、服務に厳しく、気付いた点は互いに注意し合う。 4－②服務事故防止研修で自らを振り返り、服務事故に関する情報等について把握し、子供への言動など常に高い意識をもつ。

(4) 重点目標および達成のための方策〔行政系〕 ※下線は教員も

	何を	どのように
職務目標	1 予算・決算 2 会計 3 教材・教具 4 安全管理・福利厚生 5 服務規律・職場のルール	1－①5年先を見通して、予算編成を行う。 1－②児童のためにという優先順位を考える。 1－③予算が決定次第、早めの執行に努める。 2－①健全な会計の執行を行う。 <u>2－②学年会計簿を確実に作成し、明確に記載されてあるか組織的に確認する。</u> <u>2－③集金計画を保護者に伝え年間2回の振込集金とし、現金集金を最低限とする。</u> <u>3－①タブレット導入による紙教材の精選、物価高騰への配慮など、保護者私費負担増とならないよう教材の見直しを図る。</u> <u>3－②責任者を明確にし、備品管理を徹底する。</u> 3－③不要な物は手続きを行い廃棄する。 <u>4－①毎月の安全点検で学校の施設・設備の点検を行う。</u> 4－②修理、修繕に向け速やかに手続きをとる。 4－③教職員の福利厚生の説明や支援を行う。 <u>5－①自ら服務の厳正の範を示す。</u> <u>5－②常に職場のルールの共通理解を図る。</u> <u>5－③学校経営支援部を核として事務室と職員室の情報共有を図る。</u>
能力開発目標	1 法令や制度の改正等について学習する。 2 職務に必要な知識・技能を高める。 3 一步進んだ仕事の実現に取り組む。	1－①法令の周知徹底に努める。 1－②新しい情報は全教職員で共有する。 1－③若手教職員への指導・助言を行う。 <u>2－①研修会等に積極的に参加する。</u> <u>2－②研修会で学んだことを、広く伝える。</u> <u>2－③研修会で学んだことを、実践に生かす。</u> 3－①学校経営支援部等で新たに目標を立て、新しい職務を担うようにする。 3－②職務の効率化を常に検討する。 3－③協調性を大切にしながら、意欲ある職場の雰囲気づくりに努める。